

「タイ・チュラーロンコーン大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学文学部4回生 千種杏奈

今回のプログラムへの参加のきっかけは、ASEAN 諸国についての理解を深めたいと思ったからである。来年の就職が決まっている私にとって、日本企業が数多く進出するタイに興味があった。また ASEAN の盟主であるタイは、どのような性格をもつ国なのだろうと、自分が実際に現地に行き知りたいと考えていた。

結果として、今回のタイのサマースクールは非常に刺激的で、今後さらに英語やタイ語を学び、より一層タイと日本の関係を深めたいと考えようになった。

私がタイで学んだことや感じたことについて、以下の三点にまとめて報告する。

一点目は、チュラーロンコーン大学の学生の皆さんの親切さと優秀さである。チュラ大の皆さんとは一緒に発表準備に取り組んだり、色々なところへ遊びに連れて行ってもらったりした。2週間でチュラ大の方々から受けた様々な「おもてなし」はとても濃く、感激した。彼らが今後来日する際には、自分がよりたくさんのおもてなしで恩返しをする番だと思っている。また自分は京大で4年間真面目に勉学に励んだつもりでいたが、チュラの日本語学科の皆さんはまだ2年生であるにも関わらず日本語がとても上手く、さらに第四、第五外国語まで習得している姿を見て、いかに自分の学びが足りなかったかを痛感した。残り少ない学生生活であるが、これから英語やタイ語などの外国語をもっと主体的に勉強をしてきたいと感じた。

二点目は、自分の宗教やアイデンティティの自覚である。世間で「日本人は無宗教」と言われるように私もそうだと思っていたが、タイの仏教に根差した生活や、チュラ大生と合同の「タイと日本の祭りの比較」の発表を通して、自分の考え方がいかに神道や儒教的価値観に基づくものであるのかを実感した。また日本の仏教は大乗仏教だが、タイの仏教は上座部仏教であり、仏教でも思想や様式が日本と異なることに驚いた。またバンコクは街や人も日本と似ているところが多い印象であったが、街の至るところに王族の肖像があったり、お坊さんが修行されていたりと、タイの「日常の当たり前」を感じる事ができた。

三点目は、タイで私が取り戻した前向きな姿勢である。修了式の際にも話題になったが、日本の「大丈夫」と同義のタイ語の「マイペンライ」について言及したい。私は「大丈夫」はマイナスからの回復というイメージがあるが、タイ語でこれと同義の「マイペンライ」にはプラスへの転換というイメージを持っている。日本は超高齢社会に突入し、将来への不安や景気失速などで先行き不透明の暗いニュースが多い中、自分自身も前向きな姿勢や挑戦を忘れてしまっていた気がした。「マイペンライ」を大切にして、色々な学びや希望を、自分が行動することで見つけていきたいと感じた。

以上が私がタイで感じ、学んだことである。自分自身の気づきや学びも大きかったが、今回の一番の実は、たくさんタイ人の友達が出来たことである。今後もタイ人の友達との繋がりを大切にして、きっとまたタイや日本で会いたいと思っている。

最後になりましたが、今回のプログラムを支えてくださったチュラ大の先生方、学生やサポーターの皆さま、京大の先生方、職員の皆さまには大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。